

<第2回「多文化共生社会」六大学交流会>

日時：2016年6月11日（土）13:00-18:30・12日（日）8:30-12:00

場所：広島大学東広島キャンパス

博士課程教育リーディングプログラム第2回「多文化共生社会」六大学交流会が6月11日（土）から12日（日）の2日間にわたり、広島大学東広島キャンパスにて開催された。11日は広島大学たおやかプログラムのプログラムコーディネーターである、岡橋秀典教授の開会の挨拶で始まった。基調講演1「望ましい水資源管理の実現に向けた多様なステークホルダーとの協働」では、総合地球環境学研究所の窪田順平教授が水文学の専門家としてインドネシアやトルコの水資源管理に携わってきた経験をもとに、望ましい水資源管理を実現するには、研究者もステークホルダーの一員に過ぎないと自覚して、地元住民とともに、協力して水資源管理の体制を作り上げることが重要であると話した。基調講演2「枠を超えるのは尖った専門性~研究者的ビジネスの仕掛け方~」では、株式会社リバネスの武田隆太氏から、研究者がビジネスを仕掛けるには、Q（Question：問題点に気付く）・P（Passion：問題を解決するための熱意）・M（Mission：問題解決のための任務遂行）・I（Innovation：新たなビジネスの創生）のサイクルが必要であると話した。講演後は活発な質疑応答が行われた。ポスターセッションでは、各プログラムの活動について、プログラムの学生や教員より説明があった。ポスターの説明と質疑応答により、相互の活動内容を理解し、意見交換を行うことができた。学生グループディスカッションでは、基調講演をふまえて、6プログラムの学生混合グループが「分野の壁は越えられるか?」「現場の知を生かすには?」「『多文化×異分野』の博士はどこへ?」の3つのテーマから各グループで1つのテーマを選択し、アドバイザーである総合地球環境学研究所の窪田順平教授、株式会社リバネスの武田隆太氏と上野裕子氏の指導の下、議論を行った。12日は、各グループから議論の内容についてプレゼンテーションが行われ、他のグループの学生から多くの質問やコメントがあった。学生のプレゼンテーション及び質疑応答を受けて、3名のアドバイザーよりコメントを頂き、最後に、広島大学の藤原章正教授より閉会の挨拶があった。2回目の開催となった本交流会には約80名の学生・教職員が参加し、大変盛況であった。



(左：ポスターセッション、右：学生混合グループによるプレゼンテーション)